

このとり通信

～兵庫県助産師会だより～

一般社団法人 兵庫県助産師会

第19号(30) 2023年3月31日発行
(発行部数 400部)

発行責任者 國廣 晴美
編集責任者 杉原 真理



〒650-0011
神戸市中央区下山手通5丁目8-14
山手グレイハイツ305号

TEL:078-362-1310(月～金)10:00～16:00
FAX:078-362-2737(24時間)
Email:info@hyogo-josanshikai.com
HP:http://hyogo-josanshikai.com/

ごあいさつ

副会長 毛利多恵子

これからの地域助産師の夢

今年度の大きな事業として、神戸市からの委託事業である、訪問型産後ケアを年間約900件、WEB両親学級を毎回50組以上の両親に対して実施しました。

母子保健事業が、多くの母子に届くために、助産師会という組織を通して委託したいという行政が多いようです。委託事業では、助産師の質向上のための研修会、助産師への個別指導、利用者からのクレーム対応なども求められています。神戸市以外に兵庫県下の他市町からも、母子保健事業の一部を組織的に担ってほしいと期待を寄せられています。1月には、県下の市町助産師会との会議も行い情報交換しました。

助産師は、病院 診療所 助産所 保健所などに属し妊娠から分娩、産後育児期まで関わっています。今から100年前の産婆たちは、まさにお産を含む「切れ目のない継続ケア」を実践し医療と保健両方を担っていたわけです。利用者にとって継続ケアがよいといわれていますが、助産師にとっても「切れ目なく継続的にかかわること」「お産を含む継続ケア」を地域助産師も施設助産師と協働できるシステムを創造できたらいいなと思っています。



副会長 嶋澤恭子

会員の皆様へ

皆様におかれましては、COVID-19流行の時期も現在もそれぞれの場で助産師の活動に取り組んでおられることと存じます。私自身も教育の場に職を得ながら、本会の理事となり約1年、事業や活動を通して直接・間接的に多くの助産師さんと交流する機会を得て、刺激を頂いています。長引くCOVID-19流行禍に皆で培ったオンラインツールが、このNew Normalといわれる現在も会員同士や妊産婦支援に大いに活用できおりうれしく思います。さらには今注目されているチャットGPT(あらゆる質問にAIが会話形式で答えてくれる)といわれるものも私たちの社会の仕組みを変えるものになるようです。

このようなICTの発達の中にあって、丁寧に妊産婦や、次世代の誕生や育成に関わり、自律性をもってケアを提供する助産師の役割はますます価値があり重要になってくると思います。そして、その発信力も情報社会の現在には大事なのだと思います。

助産師の職能団体として、妊産婦や女性に対して、そして会員同士も、さらには行政や関連団体との連携においても「顔の見える」関係性で繋がれるように、微力ながら引き続き尽力したいと思います。

どうぞよろしく願いいたします。



90周年記念事業委員会 活動報告



90周年記念事業委員長 藤井ひろみ

2022年、兵庫県助産師会は90周年を迎えました。周年記念事業は、会のこれまでを振り返り、未来を見据える節目となります。20年前、そして10年前にはそれぞれ70周年、80周年を記念したパーティ開催と記念誌を発行しました。90周年は、次の10年後には100周年という偉大な節目を迎えることから、周年記念事業として①コロナ禍の今だからこそ行えるWEBイベントの開催、②100周年に向けたデータ蓄積としての記念誌作成、③会員の団結を促すような記念品の作成をすることとしました。

90周年記念事業委員会は、事業の特性から会員の「福祉厚生」を所掌する福祉厚生委員会の3人の委員（長井さん、森下さん、蚊口さん）と、助産所部会（加須屋さん）、保健指導部会（東さん）、勤務助産師部会（寺嶋さん、打越さん）から委員を募り、理事会メンバーである委員長（藤井）と合計8名で活動しています。8人全員が口八丁手八丁の「仕事しい」の助産師ばかり、なおかつ優しくポジティブで、委員会はいつも活発にアイデアや意見を出す場になっています。メールで仕事を報告し合う際も、いつも労いや元気になれるエピソードを添えた返信がすぐにあり、90周年委員会の活動で皆が癒され、元気をもらえているように思います。

計画通り、11月3日にWEB上で「助産師（私たち）の今と未来を助産師（仲間）と共有する」をテーマに、イベントを開催、その後オンデマンドでも配信しました。会員から10年後に向けたメッセージと写真を募り、記念品としてクリアファイルのデザインに盛り込み、また記念誌にメッセージを掲載し、100周年に向けたタイムカプセルのような事業となることを目指しています。

会員の皆さまへ・・・今後の10年も元気に、あるいは後輩に夢を託して穏やかに、歩いて参りましょう。



委員会報告

安全対策委員会 ～安全に助産師業務をするために～

安全対策委員長 鳴坂 広美

日頃は安全対策委員会の活動にご理解ご協力を頂き、有難うございます。今年度の主な活動として、15件の分娩取り扱い助産所に訪問及びzoomによる助産所安全管理評価を行い、日本助産師会に報告しました。

保健指導部会安全管理評価は以前の母乳育児支援評価と内容が大幅に変わり、周知出来ず回収が50件中11件でした。ヒヤリハット、インシデント、アクシデントに関して皆様からの報告はありませんでしたが、病産院のみならず、訪問等助産師の活動は更に広がっています。日本助産師会より産後ケアでの重大事故も報告されていることから、安全に業務を遂行出来ているか、小さなヒヤリハットからご報告頂き、事故に繋がらないよう改善に向けて情報共有出来たらと考えます。また対象者と自身を守る為、助産師賠償責任保険の加入、毎年の更新をお願い致します。

各助産所個別のホームページ掲載内容のチェックは、新開設分娩取り扱い助産所へ行き、問題はありませんでした。ホームページ掲載には様々な厳しい規制がありますので、ご注意ください。来年度もご協力宜しくお願い致します。



教育委員会 ～2022年度の活動を振り返って～

教育委員長 廣谷 薫

今年度は、オンライン研修（ライブ配信 + オンデマンド配信）、新生児蘇生法研修、助産所実地研修の大きく3つの研修を開催しました。

オンライン研修の感想には「明日からのケアに結びつく」とのご意見を多数いただき、日々の助産ケアに直結する研修が開催できたと思っております。グループワークを取り入れた研修もあり、直接会うことが制限される世情においても受講者間の交流を図ることができました。

新生児蘇生法研修は6月と2月に集合研修を開催し、加えて、新生児蘇生法インストラクターが研修受講施設を訪問するデリバリー研修を企画しました。デリバリー研修は初めての試みでしたが、大きな反響をいただきました。次年度は、より多くの施設にお届けできるようにしたいと委員一同張り切っております。

助産所実地研修は、妊娠、分娩、産後ケアまで、受講者の目的に応じた研修ができるよう工夫しました。協力助産所の先生方には多大なるご尽力をいただき、受講生からは「学びの深い研修であった」と喜びの声をいただいています。

次年度も皆様からいただいたご意見を基に、スキルアップに役立つ研修を企画運営していきたいと思っております。



広報委員会 ～兵庫県助産師会のことをもっと多くの人に知ってもらいたい～

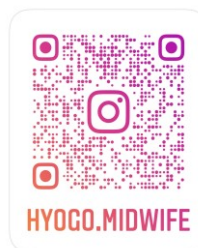
広報委員長 杉原 真理

今年度の広報委員は、①ホームページの改訂、②SNSの有効活用、③このとり通信の発刊という3つの柱で活動して参りました。

今のホームページを整理し、新たな情報発信の場として、より見やすく、皆さまに使っていただきやすいものへと刷新していきたいと思っております。来年度にはリニューアルしたホームページを皆さまに使っていただけるよう準備しておりますので、楽しみにして下さい。また当会は様々な子育てイベントを行っており、そのイベント告知はInstagramを活用しています。今の子育て世代のママ達の目に入りやすいよう投稿画面も工夫し、認知度UPを目指しています。皆さまも是非一度ご覧ください。

皆さま、このとり通信は楽しんでいただけているでしょうか。会員の皆さまに当会の活動を知っていただけるよう、内容を工夫し、秋と春に2回発刊しております。

また今年、当会のチラシも作成致しました。多くの方に、兵庫県助産師会の活動を知っていただけるよう、これからも邁進していきたいと思っております。「こんな情報が知りたい!」「こんな活動をしてみてはどうか」など、皆さまのご意見がありましたら是非お聞かせ下さい!



災害対策委員会 ～いざという時のために。今年度事業を振り返って～

災害対策委員長 阿部 久美子

今年度、災害対策委員会では初の試みとなる「ぼうさいこくたい 2022」に出展をいたしました。前回のこのとり通信でお知らせした内容で、2日間合わせて700人を超える方々にブースに入ってもらい、助産師目線での防災・減災知識の啓蒙を行うことが出来ました。当日はNHKやサンテレビへのメディア露出もあり、兵庫県助産師会を多くの方に知ってもらうことが出来たのではないかと考えております。近隣自治体からのブース訪問もあり、助産師の活動について非常に興味を持って頂けました。今後は災害時に助産師が中心となって母子のケアが早期にできるような協定を自治体と結ぶべく働きかけていく予定です。

先月の大雪被害や、海外ではトルコでの大地震など、災害は前兆なくどこにでも起こります。阪神・淡路大震災から28年が過ぎ、戦後初の大規模自然災害被災県であるはずの兵庫県ですが、残念ながら防災減災に対する意識は風化してきているように感じます。

2月に行いました災害時安否確認訓練では会員の皆様からwebフォームにて返信をいただきましたが、返信率は約45%と全会員数の半数以下となっております。安否確認は兵庫県助産師会としての被災状況とボランティア助産師派遣・物資要請のためにとても重要な情報の一つです。現況では実際に災害が起こった際、十分に効果を発揮できるとは言い難く、今後は会員の皆様からのご意見も頂きながら訓練方法やツールの見直しを早期に行っていきます。

来年度も会員の皆様への防災減災研修の他、地域の母子に対する防災知識の啓蒙活動もしていきたいと考えております。いざ災害が起こった際、できる限り被害が少なくスピーディに対応できるよう、委員会としても研鑽を重ねていきますので、会員の皆様のご協力をお願い致します。

ぼうさいこくたい 2022



福祉厚生委員会 ～会員の健康と安全のために～

福祉厚生委員長 長井 順子

福祉厚生委員会では、助産師の資質の向上と会員の健康・安全を目的として、より良いケアを提供するために様々な事業を展開しています。母子に密接なケアをする助産師自身の感染症抗体価を提示することは非常に有効で安心感につながるため、HPに「医療従事者のためのワクチンガイドライン」と合わせて記入式の抗体価カードを載せ活用を促進しています。引き続き健康診断と賠償責任保険の加入についても促していきます。

また、今年度は兵庫県助産師会の90周年にあたり、その記念事業の運営委員に福祉厚生委員が加わることになりました。11月3日の記念式典Live配信に向けて企画から素材の収集、夜遅くまでの編集作業など8名の役員で試行錯誤しながら進めていきました。時には煮詰まりながらも夜中に送られてくるメールで1人ではないと、ともに頑張る仲間存在に勇気づけられました。当日の運営を含め少しずつですが確実に形になっていく様は、まるで遠い昔の部活動のような、また学園祭の準備のような、追い詰められながらもウキウキする、そんな気持ちが呼び起こされ、全般を通じて楽しく嬉しい体験をさせていただきました。

今回このような機会を与えていただき感謝しています。様々なプログラムでご協力いただいたみなさま、本当にありがとうございました。

今後も福祉厚生委員会は会員の健康と安全のための事業を企画提案していきます。みなさまのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



兵庫県子育て・女性健康支援センター運営委員会 ～地域に根ざした母子支援活動～

子育て・女性健康支援センター運営委員長 竹中 靖子

昨年度より継続している「妊娠・子育て電話相談」は、徐々に利用が増え、月に40～50件の相談があります。育児中・妊娠中の方からの相談を中心に、内容は多岐にわたります。気軽な相談相手を得にくいコロナ禍の影響も感じられました。相談員はミーティングを行い、情報共有や困難事例の対応の振り返りをして、スキルアップを図っています。

オンラインベビーマッサージ講習・育児相談「子育てわくわくtime」を月に2回開催しています。気軽に自宅から参加できるのが良いと参加者も増えてきました。

神戸市委託事業「神戸市オンライン両親教室」は、10月より妊娠編、出産編、産後編と3つのクラスを開催しています。オンラインですが参加者交流もできるようにグループに分かれてのセッションも企画しました。

対面参加型のニーズも高まり、不定期ですが、ベビーマッサージと育児相談、両親教室も開催しました。両親教室での妊婦ジャケット体験や人形を使っ
ての沐浴・だっこ・おむつ交換体験は大変好評で、
継続して行う予定です。

引き続きセンター事業に協力していただける方を募集しています。一緒に地域で助産師の専門性を発揮しましょう。様々な働き方の助産師との交流の機会にもなります。



子育て・女性健康支援センター「助産師が伝える両親教室」

産前産後ケア事業部運営委員会 ～兵庫県内の産前産後ケアの推進に向けて～

産前産後ケア事業部運営委員長 岡崎 智津美

当会では、兵庫県内での産前産後ケア推進のための活動を行っています。まずは、兵庫県助産師会が委託を受けた神戸市訪問型産後ケア事業を展開し、2021年12月から実働しています。現在登録助産師30名、調整担当助産師11名、事務担当1名の体勢で、利用者、助産師、神戸市、保健師などが連携を取りながら取り組み、ケアの質を高めるためのミーティングや事例検討なども毎月オンラインで行っています。そして、神戸市以外の市町との連携、委託も視野に入れながら、今年度は県内で利用できる「～助産師が贈る～産後のケア手帳」の作成を行いました。来年度から配布予定ですので、ぜひご活用ください。

また、今年度のちからアップ研修では、虐待防止、発達障害をもつ妊産婦のケア、ハイリスクケースの多職種連携など4つの研修を企画しました。来年度も引き続き、産前産後ケアを担う助産師が「今」学習したいテーマで研修を企画したいと思っています。

将来的には、「妊娠期から産後まで顔の見える切れ目ない支援」ができるよう、地域で活動する助産師の拠点となる会立助産所の開設も引き続き視野に入れて取り組んでいきたいと思っています。



専門部会報告

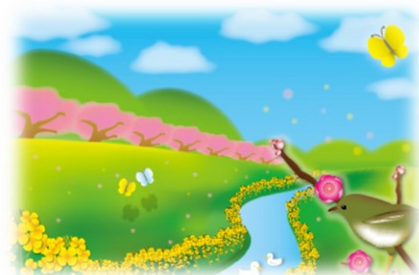
助産所部会 4施設新規開業～皆で支えあえる部会を目指して～

副部会長 島崎 明代

近年、全国的にもお産を取り扱う助産所が減少し、分娩施設の選択肢の一つにあがらない現状が続いています。しかしながら、空床を利用した産後ケア利用者は年々増加しており、女性に寄り添う助産師のケアを感じてもらうことは嬉しい限りです。今後も質の高いケアを提供していくことで、助産所の存在を知ってもらう機会につながればよいと思っています。

私事となりますが、緒先輩方にご指導を賜りながら助産所を開業し10年が経過しました。その間に新規開業者がおらず、兵庫県助産師会で30年続けられたマナ助産院が閉院となり、部会としても残念な思いでいっぱいでした。しかし、今年度は4施設の新規開業を迎えることができ、とても嬉しい出来事となりました。

助産所部会は、2カ月に1回のZoom会議で、新規開業の取り組みや連携医療機関の調整、抱える問題や工夫などについて活発な意見交換や情報共有ができました。次年度はZoom会議だけでなく、実際に顔の見える関係を作る機会を増えることを望みます。助産所は妊娠期からの継続ケアにより、幸せなお産へ導くことを大切に、助産所間では気軽に話せ、協力しながら、皆で支え合える助産所部会でありたいと思います。3月は助産所部会主催で、分娩型助産所開設を目指す方へのカフェがあります。新規開業した4人の体験談や交流ができる機会になりそうです。



保健指導部会 ～会員同士の顔が見えて一緒に考えられる関係づくり～

部会長 藤尾 さおり

部会の会員数は2023年1月現在126人と昨年度末から10人増加しています。保健指導型で開業される方も多くなり、社会的にも産後ケアが注目されている中、助産師同士が連携し、協働していくことがますます大切になってきているのではないかと思います。開業をしたいけれど、何から始めて、どうやって進めていったらいいのかわからない、不安もいっぱい、何がわからないかもわからない、そんな方もおられるのではないのでしょうか。

12月に開催した第2回目の部会集会は、オンラインでの座談会で自由におしゃべりをしました。この日は少人数で、お子さんも一緒に画面に映りながら、遠くに住んでいても顔を見て、初対面でも安心してお話ができました。開業について話題がたくさんあり、疑問もいっぱい解決できた会になりました。1月の第3回目は障害児の子育て支援について、3月には保健指導型助産所開業についての相談カフェを企画しました。

これからも会員同士つながり、顔の見える関係で一緒に考え、それぞれの地域での活躍を後押しできるような笑顔いっぱいであたたかな部会でありたいと思っています。



勤務助産師部会 ～母子に寄り添う助産師～

部会長 寺嶋 智穂

令和4年度は、自立した助産実践のために「CTGモニタリングを事例から判読する～中井先生講義応用編」と、分娩介助に関するスキルアップを目的に「女性に優しいお産」の研修会をしました。2つの研修会では、母子を守る助産師として基礎的な知識は勿論のこと、臨床で困った事例の判断や対応を話し合い、母子に寄り添う助産師の在り方を考えることが出来ました。

わいわいカフェでは、母子を守るために「女性の声を聴く」ことが重要であり、切れ目のない母子支援のためには関連機関との連携が必須であり、助産師1人1人が楽しく助産活動をしていきたいと考えていることが分かりました。また兵庫県助産師会90周年記念行事を通して、様々な場所で活躍している助産師との出会いがあり、私はどんな助産師になりたいのか？を改めて考える機会になりました。

コロナ禍と言われて3年が経ちます。直接、人と会うこと、五感を活用した人との関わりの大切さを痛感しています。

次年度は、対面での研修会や交流会を計画しています。みなさまと力を合わせて、これからもワクワクと楽しく活動していきたいです。次年度も、どうぞよろしくお願いいたします。

令和4年度 わいわいカフェのテーマ



第9回	「令和4年度の勤務助産師部会の活動について意見交換」～交流を図る
第10回	「コロナ禍の学生や新人教育について」
第11回	「地域で働くとは」～連携
第12回	「妊婦さんが主体的にお産に取り組めるように、助産師が出来ること」
第13回	「助産師になって良かったこと」
第14回	4月、テーマ未定

事務スタッフ紹介

楡井 静代さん

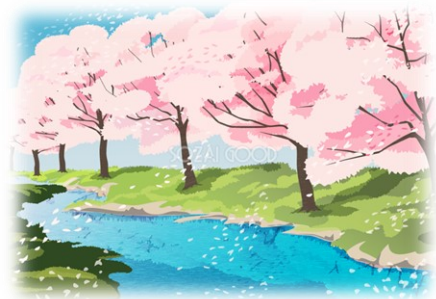
初めまして。
いつもお世話になっております事務局の楡井と申します。
わたしは昨年4月に入社し、もうすぐ1年が経とうとしています。今まで経験したことのない事務内容ばかりで、まだいまだに戸惑っています。たくさんご迷惑をおかけしておりますが、会員みなさんが気持ちよくお仕事していただけるよう努めていこうと思っております。

堀江 清美さん

経理事務を担当しています堀江清美です。
男3人のおばあちゃんです。☺
経理申請では、ご協力をありがとうございます。
昨年春に、長年お世話になっていた福原さんが辞められて不安いっぱいだった令和4年度でしたが、後任の楡井さんも良い方で何とか頑張っています。
事業が色々拡がって、皆さんも頑張っているようで嬉しいことです。私は、そのたびにうろうろとし、ご迷惑をかけている事と思いますがこれからよろしくお願いいたします。

辻井 千恵さん

2021年12月から開始しました、神戸市訪問型産後ケア事業の事務局でお世話になっております辻井と申します。行き届かないことが多々ございましたが、訪問型産後ケア事業助産師の皆様にご指導をいただきながら、1年を無事終えることができました。皆様から温かくご指導いただいた経験を糧に、お役に立てるように頑張りたいと思います。
また、利用者の方への産後のご指導、ご助言等を拝聴させていただくことで、この歳になって学ぶことも多く、楽しくお仕事をさせていただいております。



2022/9/28～2023/2/28の入会者

WELCOME 新入会員の紹介

現在(2/28)の会員数 383名

	助産所部会	保健指導部会	勤務助産師部会		
新入会員	山口 瑠依	小林 育美	大石 千絵	名村 理恵子	吉田 実加
			佐藤 直美	三谷 愛	田中 奈津子
			田中 心 (長崎県より)		

🌸🌸🌸🌸🌸 令和5年度定時社員総会のご案内 🌸🌸🌸🌸🌸

日時：令和5年5月21日(日) 10:00～ (予定)

場所：兵庫県学校厚生会館3階大会議室 現地開催を予定しております。

*詳細は追ってご連絡させていただきます。

編集後記

広報委員会では、今年度、Instagram更新やHPの改変をすすめてまいりました。また、このとり通信の年2回の発行、助産師会を多くの皆様に知っていただくためにチラシの作成も行いました。助産師会の会員様はもちろん、一般の方にも、活用していただきやすい媒体作成を目指しておりますので、ご意見がございましたらぜひお寄せください。

会員専用ページへのログインは次のとおりです。今一度ご確認ください。

ユーザー名 ➡ フルネーム英数半角小文字
パスワード ➡ 会員番号下4桁

広報委員：杉原真理・金川景子・上月晶葉・吉川恵理・徳重朋子・松岡倫子・土田純子 担当理事：南田理恵

